

# 意見発表者9(会場③埼玉県さいたま市)

## 意見の概要

### 検証の目的と方法：

- 日本が直面している危機に際して、「なるべくダムに頼らない」という理念を予断なく追求すべき。公開の場で討議し、国民、政治家、マスコミが正しい理解を共有して判断すべき。
- 行政には「国民の英知を求める」という謙虚な姿勢が欠けている。

### 治水：

- 基本高水/目標流量は、実績流量との乖離が大き過ぎる。

### 利水：

- 水需給予測に関する水需要予測が過大。特に東京都。
- 暫定水利権は事実上安定しているので安定として扱うべき。

### 「費用対効果」には負の便益も算入すべき：

- 国交省の試算の中には、物理的にありえない前提に基づいているものもある。
- 便益には、マイナス便益も公平に算入した上で比較すべき。

### 完成時期と総工事費の増額：

- 推進側は「予定通り 2015 年までに完成せよ」と声高に主張しているが、現実的には今後 10 年はかかる。下流都県として原点から見直すべき。
- 建設費総額は追加工事、「減電補償」を含めて巨額の増額が予想される。